社会福祉現場実習生に対する安全教育 ——事故予防のための危険予知訓練について——

○ 田口豊郁 (川崎医療福祉大学・医療福祉学部)

Safety education for fieldwork students engaged in social welfare institutions:
a study on the danger detection training(KYT).

Toyohiro TAGUCHI (Kawasaki University of Medical Welfare)

1. はじめに

社会福祉現場では、福祉マンパワー——社会福祉士、介護福祉士、保母、看護婦、ホームヘルパー等——の養成のために、実習の機会が増えつつある。川崎医療福祉大学の医療福祉学科では、[社会福祉援助技術現場実習]で毎年、200人を超える学生が社会福祉施設で実習している。実習中には、事故にまではいたらないが、「ヒヤリ」とか「ハット」する場面が多くあることは、容易に想像できる。そこで、安全については、実習前教育のカリキュラムに取り入れる必要があると考えた。危険に対する感受性を高めるためには、産業現場で早くから取り入れられている危険予知訓練(KYT)が有効と考える。工場現場用の危険予知訓練プログラムは開発されている¹⁾が、実習生のための社会福祉施設現場での危険予知訓練プログラムはない。

そこで、本研究では、実習現場での事故を防ぐための危険予知訓練プログラムについて検討することにした。前報²⁾では、大学生に対して、家庭内で体験したこと——事故(ごく些細なもの含む)及びヒヤリ・ハット体験——を調査し報告した。今回は特別養護老人ホームで実習を終えた学生に対して、実習中に体験した事故及びヒヤリハット体験について調査した。

2. 方法

2-1. 調査内容：特別養護老人ホームの安全に関する調査。以下の内容について質問紙による調査を実施した(調査期間1997年5月～10月)。(1)実習中にあなたを含めて施設職員、利用者等が事故(些細な事故を含む)にあったことがありますか。

(2)あなたは、実習中に事故にまでには至らないが[あぶない！]と思ったり、[ヒヤッ！][ハット！]したことがありますか。

2-2. 調査対象：特別養護老人ホームで実習を行った川崎医療福祉大学医療福祉学科の4年生91人(男:27人、女:64人)。

3. 結果及び考察

実習中の事故84件を被害者別でみると、利用者(70)＞実習生(8)＞職員(6)であった。発生した時間帯は、昼(37)＞夕方(22)＞夜(13)＞朝(12)であった。事故の発生場所の結果を[図1-1]に

示した。活動時間である昼の事故発生が多かった。発生場所では、居室＞廊下＞食堂＞浴室順に多かった。居室の事故で多かった例は、[ベッド⇄車椅子]の移乗の際の事故であった。

実習中の事故の内容、ケガの内容およびケガの程度について[図1-2]、[図1-3]および[図1-4]に示した。事故内容では、転倒、次いで転落が多かった。転倒＋転落で約60%を占めた。ケガの内容をみると、打撲＞切り傷＞擦り傷の順に多かった。また、ケガの程度では、入院および通院と医療機関が必要な場合もあった。

実習中にヒヤリ・ハット体験による予想事故、発生場所、および予想事故内容について[図2-1]、[図2-2]および[図2-3]に示した。実習中の事故同様、転倒が多く、転落が最も多かった。発生場所も同様に、居室＞廊下＞食堂＞浴室の順に多かった。

産業現場の危険予知訓練は、作業員自身の安全確保に重点を置けばよいが、一方、社会福祉現場での危険予知訓練は、作業員(職員、実習生)自身の安全だけでなく、利用者の安全確保に重点を置く必要があることがわかった。

実習中に多くの危険因子があることが明らかになった。今後、これらの結果をもとに KYT シートを作成し、社会福祉実習現場の安全教育プログラムを完成させる予定である。KYT シートの作成例を表1に示した。

本研究は、平成9年度川崎医療福祉大学プロジェクト研究の補助を受けた。

表1 KYTシートの作成の例：利用者を移乗する場面([ベッド⇄車いす]間)

- ①利用者の体を支えている手はすべらないか。②利用者を移乗させるときバランスをくずさないか。
- ③移乗させる際に周囲のもの(花瓶、置き時計等)に触れて落とすことはないか。④移乗させるときに利用者の足を踏まないか。⑤車いすのストッパー(ブレーキ)はきちんと止められているか。⑥ベッドの転落防止用の策を脱着するとき手を挟まないか。⑦移乗の際に無理な姿勢で抱きかかえて腰を痛めないか。⑧利用者をベッドに移乗後転落防止用の策を取り付けたか。

*)上記のことが想像できるようなシートを作成する。

図 1-1. 事故の発生場所

図 1-2. 事故の内容

図 1-3. ケガの内容

図 1-4. ケガの程度

図 1-5. 事故の発生場所(上位4カ所)と事故内容

図 2-1. ヒヤリ・ハットの予想事故

図 2-2. ヒヤリ・ハットの発生場所

図 2-3. ヒヤリ・ハット発生場所(上位4カ所)と事故内容

参考文献

- 1) 中央労働災害防止協会: 危険予知活動トレーナー必携. 中央労働災害防止協会, 東京, 1996.
- 2) 田口豊郁他: 社会福祉現場実習での事故を防ぐための危険予知訓練(KYT)についての研究——建物内事故およびヒヤリ・ハット体験についての調査——日本人間工学会中国・四国支部第30回大会予稿集44-45, 1997.